

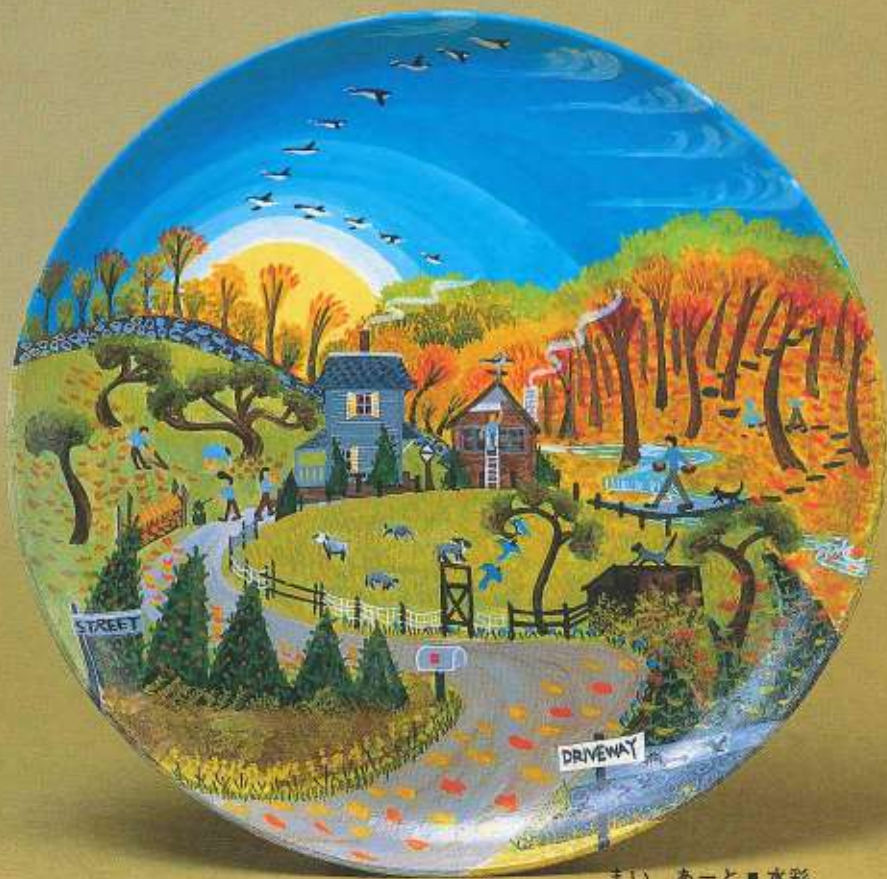
月刊

立川と語ろう 立川に生きよう

えくてびあん

〈EKUTEBIAN VOL.7 NOVEMBER 1990-EKUTEBIAN〉

11



まい あーと ■ 水彩
「DRIVEWAY」 by 佐藤紀子



なつかお絵こころみシリーズ

シャッター 芸術

お店を開める。シャッターを降ろす。そこから「シャッター芸術」の世界が展開される。なにも書かれていないのもあれば、店名と電話番号のみという味けないシャッターもあるが、画面いっぱい絵「こころ」を展開している「大作」に出会うと、広告効果もさることながら、その芸術性も見落としてはいけませんなあ、立川君！



ウイル2Fに新築なったヨーロッパ調



朝雅（鎌町）の看板をつくコピー



OHNUKI (鎌町) はこの世に100年をもちあふ店を志して2年前に製作



Right-on (鎌町) はシーズの店で、8年まえにすでに「シャッター効果」を知らせていたという

ことわざ問答

漢字一字挿入せよ

西といつたら ●と悟れ ●に聞いて 夕べに改む

11月11日

「第2回 立川えんえん祭り」会場：柴崎中央公園周辺 時間：AM10:00～PM3:30 主催：立川市商店街 振興組合連合会



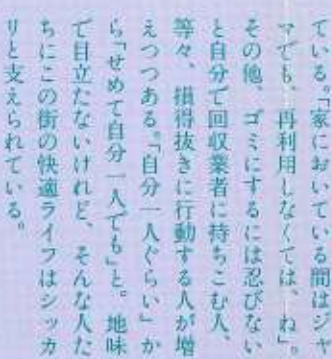
立川駅の西側、青梅線の路切り... 高松大通りや市役所通りと違って比較的渋滞が少ないように思うが、どうだろうか。



スピードをあげるわけにはいかな... 多摩防災基地と書かれた大きな看板がある。大きなパラポラアンテナがあるのは、立川防災合同庁舎の建て物だ。

とんち ゴミが増えてゆく! 快適ライフを支える人たち

地球に生物あまたある中で、ゴミを出すのは人間ぐらいだ... 立川市のゴミ処理場(若葉町)で、米川克志工場長は語る。



一人の意識が変わっていかねば... 日夜、ゴミと格闘している人の言葉には切実な響きがあった。



表紙は語る DRIVEWAY by 佐藤紀子 まい あーと 水彩

三菱の自動車つみたて定期預金 三菱銀行 立川支店

豊作なりー立川産米 秋、といえは何んといつても食欲の秋。見渡せば山は色づき動物たちは季節を感じ、たくさんのものを賑やります。

立川クイズ 甲州街道、芋窪街道、立川通りという具合に街の道路には大い名前がついています。

脂肪が気になるあなたに 保健所が、栄養展を開催 近年、健康管理への関心が高まっているが、立川保健所地区集団給食施設協議会では、この点に着眼して毎年、栄養展を開催している。

立川・エマルグス 九回目の本 年、脂肪摂取増加の影響から成人病が増加している。近年、いあなたは脂肪(あぶら)と上手につきあっていますか?

真如苑だより 晩い夏から秋にかけて、今年には随分と台風が襲ってきました。皆様、ご無事でして下さるか。猛暑、台風の年は豊作などといわれます。

御本尊、真如 宝物館をはじめとして映画など盛りだくさんの用意がしてございます。立川市民(成人)に限らせて頂きます。

豊れ高い江川太郎左衛門英龍さん。東洋のダビンチ、という人もあるくらい多才な人でした。さて、この太郎左衛門さんが立川で嘉永3年に何と種痘を実施しております。まず2月3日に名主中嶋次郎兵衛の次女だけ(一才八ヶ月)、2月11日同三女さく、名主鈴木平九郎次女さく(いずれも生後三ヶ月)の3人に接種。その後3月、村の子どもたちに一斉に行いました。江戸より4年も早い種痘の実施、立川はススんでいたのです。

駅ビルのウイイル、コンコースに面したシャッターが塗り替えられているのを見つけたのは、晩い春だったか、夜も遅く、現場におられた「天下堂」(柴崎町)の方が「ヨーロッパ調というご注文文でね」と教えてくれたものだ。出来上がると、確かにヨーロッパ調というか、フランス調というか、お洒落な雰囲気が出た。たかがシャッターとばかりにしていたが、この変化に刺激されて、秋風に吹かれながら立川の街を自転車で流してみると、結構、あるある。シャッターひとつに「思い入れ」が込められているのを見ると、やっますねえと声を掛けたくなる。商売繁盛を祈りたくなる。今回、シャッターをきったシャッターは、ほとんどが手描きだが、時代はコンピュータ時代。一枚のカラー写真があれば、それと寸分たがわぬ形、色が吹きつけられて描きだされるといふ。便利は便利だがどこか味がない。どこか「えくてびあんの味」ではない。店名と営業時間と電話番号だけデカデカと記されているのも味がない。絵どころが、なににも書かれていないシャッターも結構あって、そういうのを見ると、ペンキと刷毛をもって何やら塗りたくってみたい衝動にかられる。ところで、シャッターを撮影するには閉店後、夜間が最良のシャッターチャンスである。戸を叩く狸と秋とえくてびあんの味。

月刊「えくてびあん」第76号 平成二年十一月一日発行 発行所 えくてびあん編集工房 東京都立川市富士見町2-20-15 パークビューハイイツビル1101号 電話 0425280882 FAX 04252801297 編集人 立井啓介 発行人 沖野義男 印刷所 樹大廣社

真如苑だより 11月15日(木) 午後2時~4時

立川クイズ ① 広路一号 ② 南北道路 ③ 広路一号

東風 豊作なりー立川産米

立川 発

カルチャートレイン

半日ほどの「小さな旅」へ出てみませんか。そこには思いがけなく自然が豊かっていたり、懐かしい「この人」に会えたり。

日野の土方歳三さん

多摩川を渡れば甲州街道は日野の宿。昔からどれたけの旅人がここに疲れた足を休めたことだろう。この静かな宿場町からはばばいた新撰組隊士、土方歳三。幕末動乱の世を、疾風のように駆け抜けて。はやく、来る者を静かに受け入れてきた。ここに、はそんなまじりである。

立川を日野へ行く電車
旅人達『全乗切』



生家の近くにある石田神社の墓石。石がなまぬい



生家跡の石碑「土方歳三跡碑」(全乗切車内)

高幡山明王院金剛寺の五重塔



★電車(日野下車)3分程、バス、タクシーが便利
★車(立川より日野橋を渡り20分程)
MEMO:詳しくお知りになりたい方は、
☎0425-85-1111へどうぞ



新撰組副長土方歳三、石田神社に生家あり

